

会議録

会議名	令和4年度第2回 恵庭市まちづくり基本条例市民検討委員会
会議日時	令和5年3月27日(月) 14:00~16:10
場所	市民会館2階 中会議室
会議参加者	委員～横山委員(委員長)、泉谷委員(副委員長)、茶園委員、 小隅委員、小島委員、東海林委員、徳家委員、熊谷委員、 藤原委員、中井委員(欠席:楨委員) 事務局～大槻企画振興部長、高橋企画振興部次長、小山田企画課主幹、 吉成企画課主査、船田企画課主任主事 傍聴～1名

1. 開会

企画課主幹	只今から、第2回恵庭市まちづくり基本条例市民検討委員会を開催いたします。なお、楨委員におかれましては、本日所用のため欠席されております。
-------	--

2. 委員長挨拶

企画課主幹	続きまして、横山委員長からご挨拶をお願いいたします。
横山委員長	本日はグループワークを予定しております。 熱心な議論が予測され、時間が足りなくなるかもしれませんが、よろしくをお願いします。

3. 議事

1) 前回見直し検討時の報告書の確認について

企画課主幹	以降の議事につきまして、委員長に進行をお願いいたします。
横山委員長	議事に入る前にグループワークの進行をしていただけるファシリテーターの方々の自己紹介をお願いします。
	※ファシリテーター自己紹介
横山委員長	グループワークに入る前に事務局から ・前回見直し検討時の報告書の内容確認 ・本日の進め方 について、説明をお願いします。
企画課主査	私の方からご説明させていただきます。 まず、はじめに本日のタイムスケジュールについて説明します。 <資料1 2ページ目を説明>

次に、本日のグループワークでの進行を担当して頂きます「市民ファシリテーター」についてご説明します。

NPO法人まちづくりスポット恵み野が開催する講座を受講した市民が行政や各種団体の会議やシンポジウムなど進行を行っています。

同じ市民の目線から会議が円滑に進むように進行や、記録を作成して頂きます。市民団体として活動しており「ふぁしらさるチーム アジト」とう団体になります。

次に、5年前の検証時にどのような見直しを行ったかご説明します。

今回の検討委員会では5年前に行った検証に基づく取組について検証や評価を行うところから見直しを始めたいと考えます。

<資料1 5ページ目以降を説明>

【要約】

「協働によるまちづくり」を検証する視点から重点項目として次の4つを設定しました。

【重点項目1】 市民の協働によるまちづくりへの参画

視点①

(1)市民参加・参画の後押しについて

→市民参加度チェックマニュアル

(2)実効性のある行政評価について

→行政評価マニュアル

視点②

(1)地域と連携した体験型事業について→通学合宿など

(2)コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について

【重点項目2】 地域関係団体の協働によるまちづくりの取組

本日のグループワークの議題としないので次回説明

【重点項目3】 職員の協働によるまちづくりの取組

(1)職員の育成について→人事評価、職員研修

→市職員の町内会加入率

【重点項目4】 議会・職員の協働によるまちづくりの取組

議会・議員の調査研究や政策形成について→議員提案条例について

本日は、1回目のグループワークで重点項目3と4をそれぞれのグループで、2回目では重点項目1視点①と②をそれぞれのグループに分かれて行います。

説明は以上です。以後の進行はグループファシリテーターの皆さんにお願いします。

2) 第1回グループワーク（チームA 職員の協働によるまちづくりの取組）

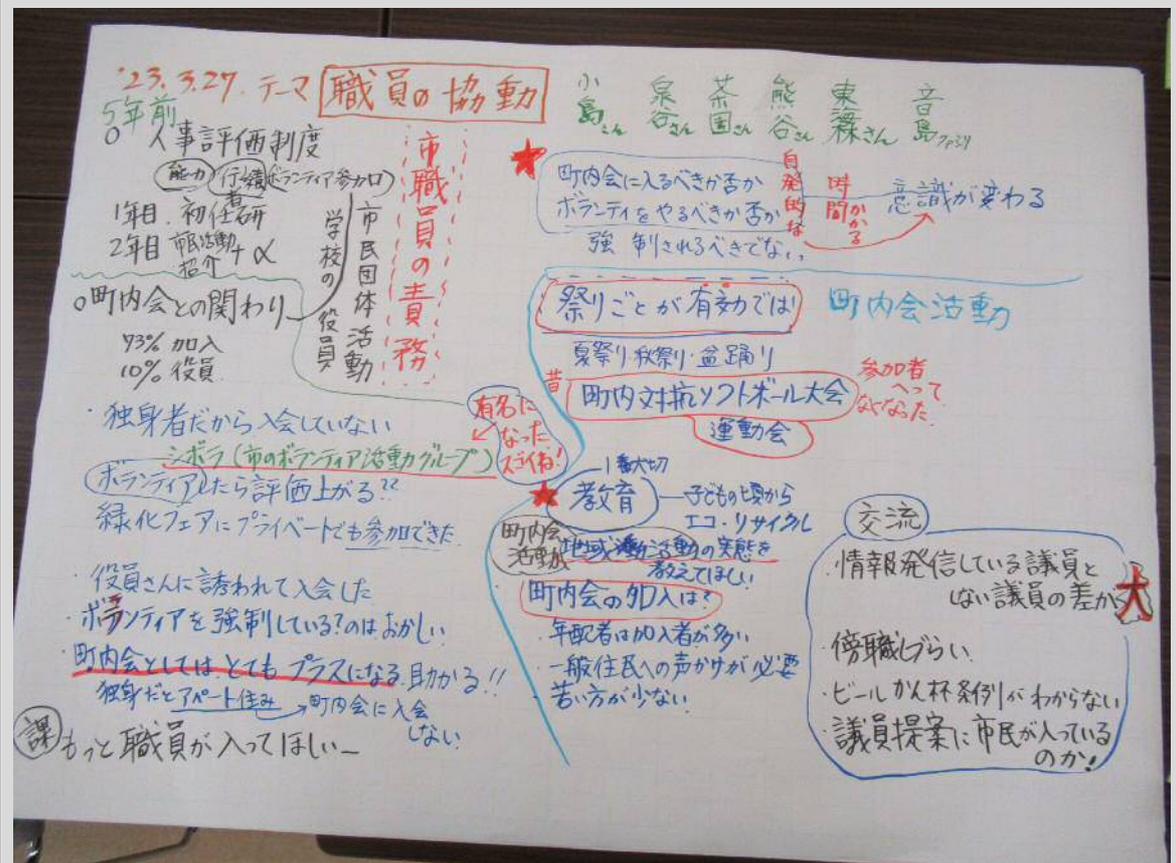
メンバー：泉谷委員（副委員長）、茶園委員、小島委員、東海林委員、熊谷委員、
吉成主査（事務局）、音島（進行）

※順番に自己紹介（氏名、所属、恵庭の好きなところを発表）	
※事務局から議題について説明	
ファシリテーター	・職員の協働のまちづくりの取り組みとして、ボランティアなどを行う職員について、人事評価制度のなかで評価されるとのことだった。
事務局	・町内会役員やPTA役員などの活動のほか、イベント支援やごみ拾いなどでも評価される。
E委員	・どのような目的での検証となるか。
事務局	・5年前に条例の検証を行った際の項目に「職員の協働によるまちづくりの取組」があった。そのような取組の一環として、人事評価や町内会の加入率などが示されていることから、取組が十分かといった点で議論をお願いしたい。
ファシリテーター	・職員協働の取組についての在り方について、意見を出して頂ければと思う。
E委員	・職員としてどう思われているのか。
G委員	・町内会との関わりを考えると家族を持って、その町に根付くときに加入するという意識があり、私自身は未加入。 ・人事評価の取組はどのような活動でも評価対象となる、職員として意欲的に市民と一緒に取り組むという意識が大切。個人的には緑化フェアを契機に市民活動に参加する職員も増えているのではないかと感じる。
事務局	・私も個人的には町内会やPTAでの活動をしている。 地域の方からの声掛けで職員の意識付けも変わるのではないかと感じている。 ・また、恵庭市役所ボランティアサークル「シボラ」という団体あり、評価制度があることにより、そこに参加してくれる職員も増えている。
E委員	・職員が地域の活動に参加してくれるのはありがたいことだと思う。 ・一方でボランティアなので強制されることがあるとどうなのかと思う点はある。
B委員	・町内会の立場としては、職員と一緒にやってくれるのは大変助かる。 ・いろいろな情報を持っている人が一緒に活動してくれることで町内会活動がやりやすいという一面がある。 ・アパートの人はなかなか町内会に加入できていないという実態はあると思う。それは職員だけでなく市民全体もそうであり、全体の町内会加入率を下げている要因にもなる。
A委員	・いまやっていることはある程度良いが、どのようにしたら更に職員が市民活動に参加していけるかを考える必要があると感じる。 ・市民活動の会議に参加する職員は決まった職員になりつつある。
G委員	・町内会や市民活動などで、活動するかはその個人の自由であり強制され

	るものではない。そこを楽しんでやれるようなきっかけづくりや意識付けなどがあれば職員の協働も進むのではないか。
泉谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りなどはいきつけになり得る。 ・自ら進んで楽しいことができる団体ということを PR して職員に手伝ってもらうことが大事。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は町内会対抗の運動会などもあった。運動を通じた交流などは参加しやすい。職員だけに限らないが、このようなイベントで顔見知りになることで協働にもつながる。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一番大切なのは教育。小中学生に町内会などの協働のまちづくりの実情を伝えることも大切。
D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の加入状況は？
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その町内会によって違いはあるが年配者が多くはある。
D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員以外の若い人にも活動が広がるようになればいいと思う。

※以下のとおり、発表（熊谷委員）

- ・どのようなことを進めると職員が地域活動に参加していけるかという点を検討した。
- ・現状の取組としては、人事評価制度で地域活動の導入によって、市役所ボランティアサークルの活動に参加する職員が一部増えている。こういったことを行うことで職員の意識付けにもなっている。
- ・職員の意識づくりの醸成など大切
- ・職員に係わらないが、子どものころから地域活動について知るきっかけがあるとよいのではないかとの意見があった。



※発表を受けて、「議会・議員の協働によるまちづくりの取組」に対する意見	
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・議員によって情報発信している人と、していない人がいる。 ・情報発信しているような身近な議員だと相談しやすいのではないかな。 ・傍聴も住所と氏名が必要で、入りづらさがあるのではないかな。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・条例を作るだけが協働のまちづくりではないと思う。 ・条例を作るにしても作る段階からの市民協働が重要だと感じる。

3) 第1回グループワーク (チーム B 議会・議員の協働によるまちづくりの取組)

メンバー：小隅委員、徳家委員、藤原委員、中井委員、

小山田主幹、船田主任 (事務局)、鈴木 (進行)

※順番に自己紹介 (氏名、所属、恵庭の好きなところを発表)	
※事務局から議題について説明	
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・条例を作った後に議員がなにをしているかを知りたい。 ・私自身、よく市民を対象としたワークショップなどにも参加するが、特定の議員しか参加していない。 ・議会ツアーなど議員や議会が身近に感じられるような取り組みは重要だと思う。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革は熱心にやっていると思うが、それを周知できているかという点に問題があるように感じる。そのような取り組みを行うことで議会を身近に感じられるきっかけになるのではないかと感じる。 ・条例もたくさんできているが、その後の取り組みが大事だと思う。作ったことを含めて情報発信が大事。
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・乾杯条例など知ってはいるが、その後、浸透しているのか。大学生など若い人にも広められればいいのではないかな。 ・ビール等とあるので、子供向けにも PR したほうがいいと思う。 ・子供発信で大人に広まることもある。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・議会をよくライブ中継で見ると、音量が小さかったりと思ってしまう。 ・議員と市職員の温度差を感じる。 ・周知をするうえでも世代によっては WEB 媒体を使うなどの工夫が必要。 ・条例の周知でも問い合わせ形式、Q&A などでお知らせすると身近に感じてもらえるのではないかな。
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく伝えることも重要という意見が多かった。 ・また、子供に対してのアプローチなどが重要という点。 ・議会の映像の改善などはすぐにできるのではないかな等の意見が出た。 ・電子化による情報発信の充実化 (Twitter など) ・話が変わるが、皆さんは市の情報はどのような手法で集めているかな？
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで検索していく形にしている。

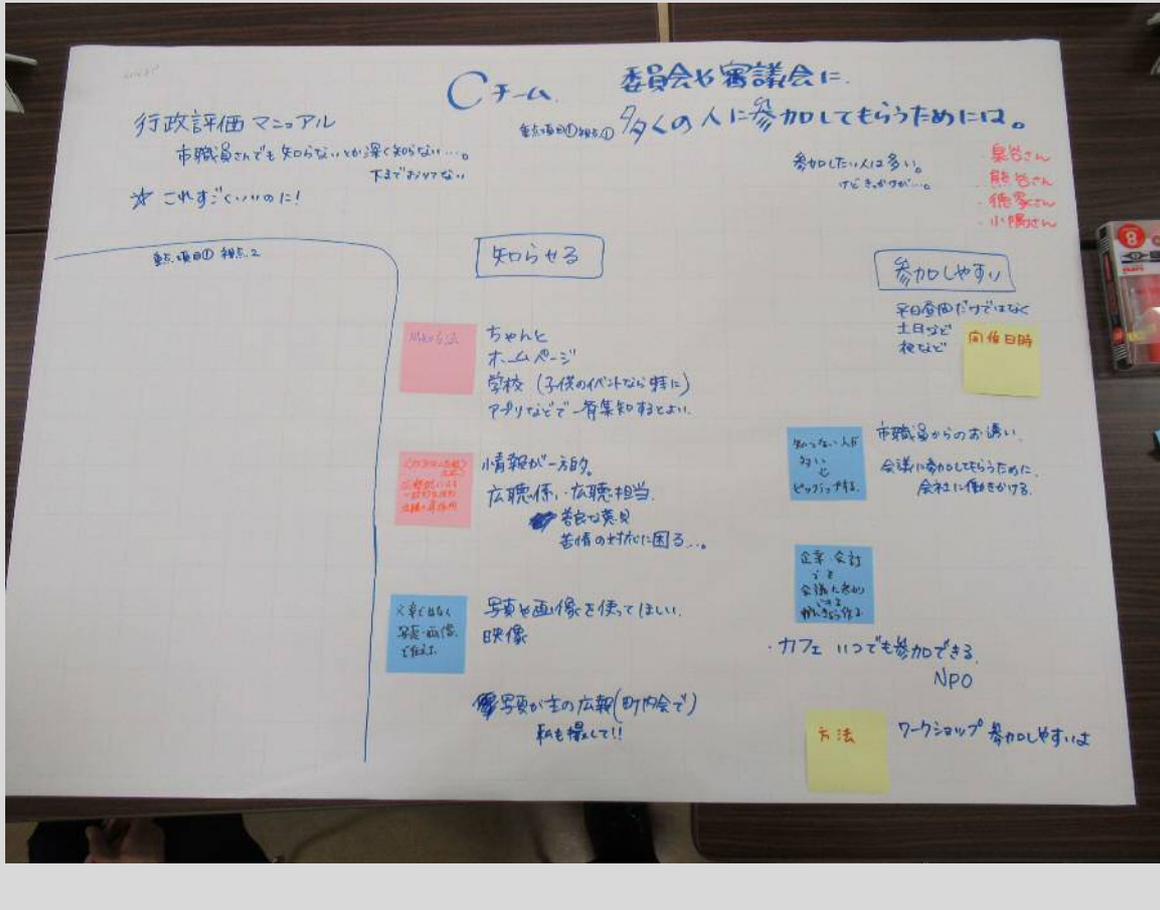
事務局	・そういった部分が地域担当職員の役割になるのでは。
C 委員	・職員が町内会への加入率 73.2%は高いと感じる。
H 委員	・人事評価があるからやるのではなく、意義を意識してボランティア活動や町内会活動に参加する職員が増えることが理想だと思う。

4) 第2回グループワーク (チーム C 市民の協働によるまちづくりへの参画)

メンバー：泉谷委員 (副委員長)、小隅委員、徳家委員、熊谷委員、
小山田主幹、船田主任 (事務局)、鈴木 (進行)

※順番に自己紹介 (氏名、所属、恵庭の好きなところを発表)	
※事務局から議題について説明	
C 委員	・行政評価マニュアルは職員に浸透しているか？
G 委員	・私自身は知っているが、若いスタッフ職など知らない職員も多いかもしれない。
C 委員	・取組は良いと思うが、さらに職員に浸透させる必要があるのでは。
ファシリテーター	・行政評価については上記のとおり意見だが、調査票の中で市民参加がテーマとなっているので、委員会や審議会に参加する市民が増えるようにするという観点でも議論したい。
C 委員	・開催日時を工夫する。平日昼だけでなく、土日や夜も含めて検討。
F 委員	・委員を募集しているということを知らない市民も多い。 ・市職員から募集している審議会について、個別にお願いすると必要とされていると感じて参加する人も増えるのではないかと。 ・民間企業にも働きかけをするなども必要ではないかと。
G 委員	・ホームページや地域情報紙への掲載などは各部署で行っている。 ・それぞれのターゲットにあった周知を考えたほうがよい。 子供関係は学校だよりも掲載してもらい、経済系であれば商工会議所に会員周知してもらいなども有効ではないかと。
委員長	・市民活動に参加したい市民は潜在的に多いはず。 どのようなきっかけを与えるか。 ・いつでもどこでも参加できるようにすることが理想 ・ボランティア的なカフェを作るなどの人集めの工夫が必要。
A 委員	・情報が一方的にならないようにする必要がある。 ・以前は広報・広聴が一緒の部署だったが、今は別になっている。
事務局	・今は生活環境課が広聴の担当部署になっている。
ファシリテーター	・どこに言ったらよいかわからないような案件について、相談できる部署の存在は大切。
F 委員	・資料も写真や画像、映像だとわかりやすい
A 委員	・ある町内会では、過去に写真を主とした広報を作っていた。
C 委員	・ワークショップを取り入れて会議を行うと委員も参加しやすいと思う。
※以下のとおり、発表 (小隅委員)	

- ・行政評価マニュアル→職員への周知・浸透が重要
- ・委員の募集→ターゲットに応じた周知媒体を使う
- ・情報を発信するだけでなく、聞く業務として広聴係の充実
- ・資料も写真や画像を使うなどわかりやすく
- ・会議時間も土日、夜など集まった委員の状況で対応するなど必要
- ・会議の開催手法も今回のようにワークショップ形式のものがあれば、参加しやすいのではないかと。



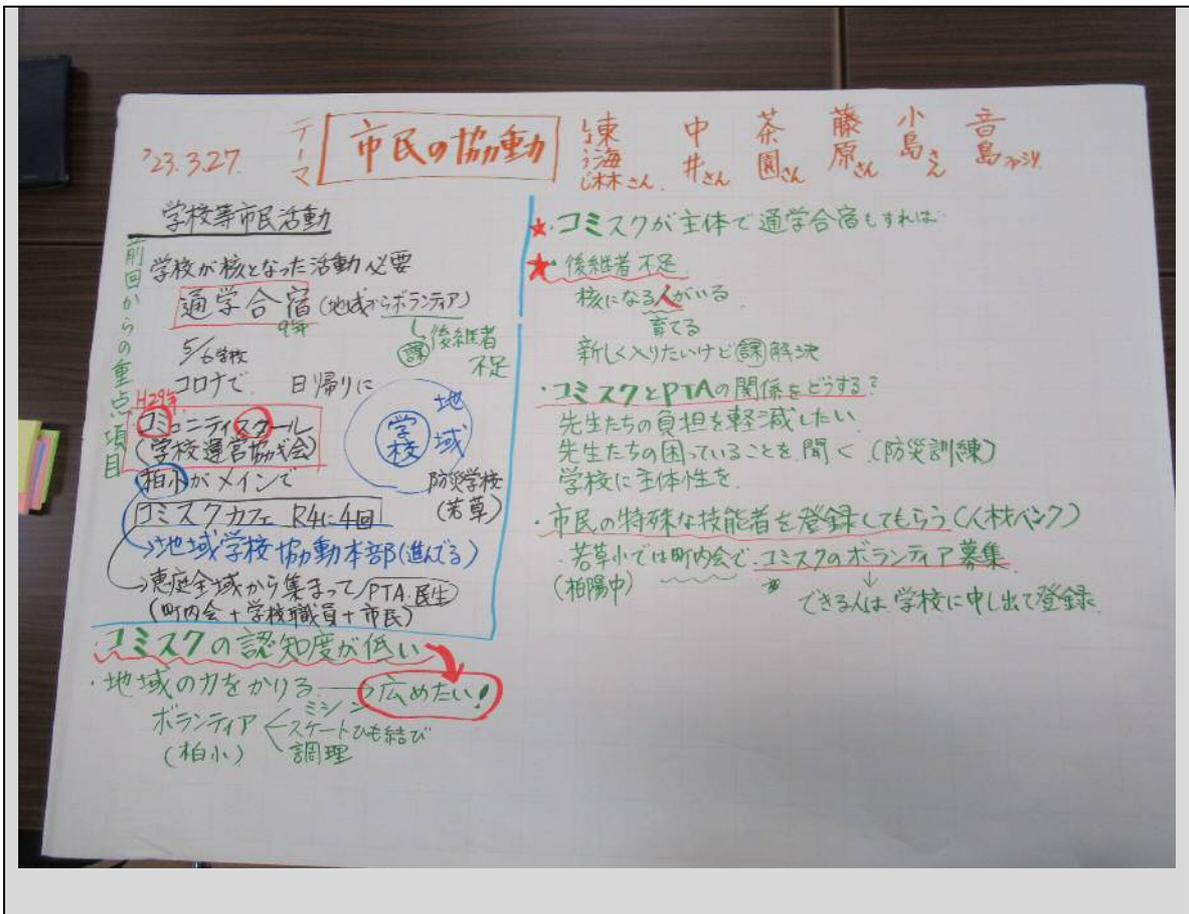
5) 第1回グループワーク (チームD 地域関係団体の協働によるまちづくりの取組)

メンバー：茶園委員、小島委員、東海林委員、藤原委員、中井委員

吉成主査 (事務局)、音島 (進行)

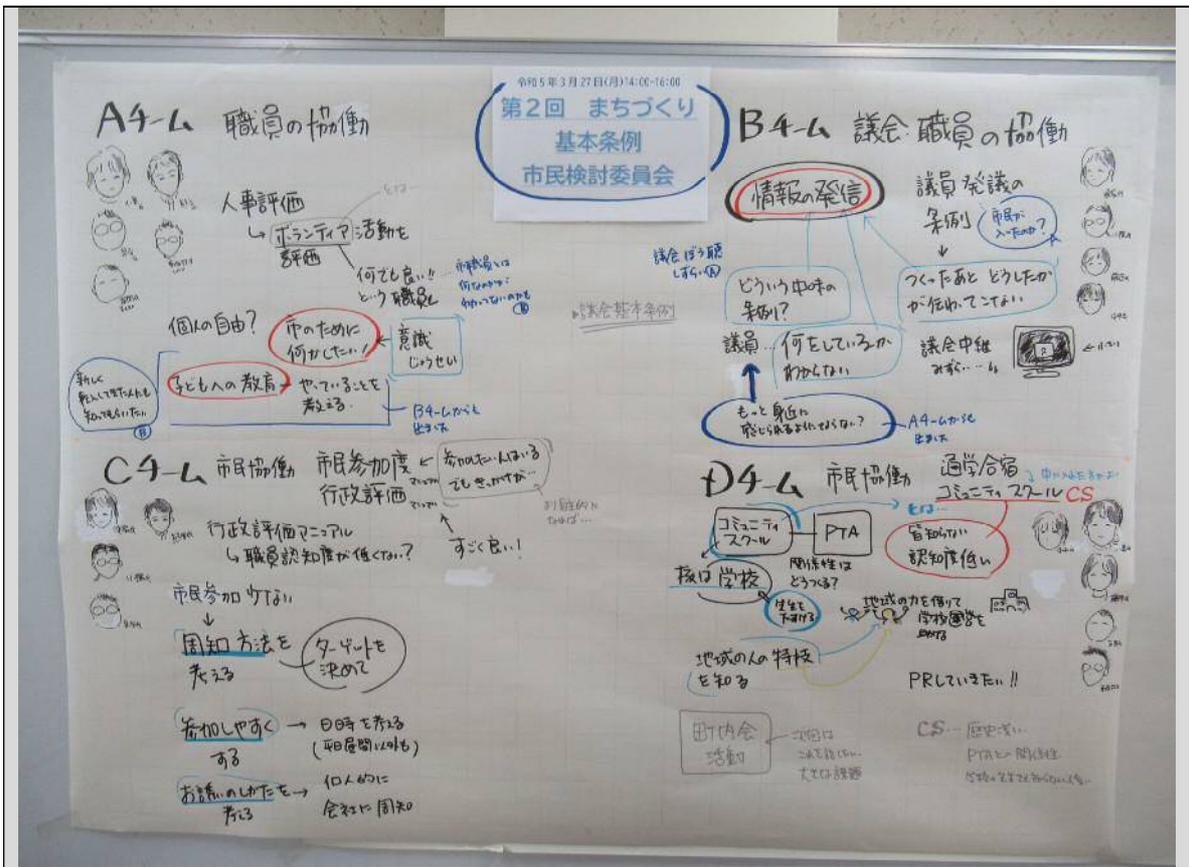
※順番に自己紹介 (氏名、所属、恵庭の好きなところを発表)	
※事務局から議題について説明	
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール自体の認知を広める必要があると感じる。 ・学校の先生や子どもたちのために地域人材を活用していく取組であり、重要性を感じる。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も参加したがコミスクカフェという取組も行っており、恵庭全域のPTA や町内、学校職員が集まって、各校のコミュニティ・スクールの情報交換を行う取り組みも令和4年度は4回実施している。 ・市内では柏小学校在先進で進めており、地域の人がスケート学習のひも結び、家庭科の調理支援、ミシンの使い方の補佐などでお手伝いしてい

	<p>るという事例がある。</p>
H 委員	<p>・既存のコミュニティの中に新規の人たちはなかなか入っていきづらい部分もある。新しい人が入っていきやすい環境作りが必要。</p>
横山委員長	<p>・コミスクの担い手はどのような人たち？</p>
B 委員	<p>・町内会役員、PTA 役員、PTA 役員の OB、学校職員など</p>
横山委員長	<p>・既存の PTA 活動は変わったか、また学校の先生の負担感などは？</p>
B 委員	<p>・PTA との連携を深めてそのような部分も情報共有していく必要を感じる。 ・私の町内の学校区では学校の先生も一部参加して頂いている。 たくさんの人がかかわることで負担にならないような工夫が必要。</p>
事務局	<p>・ある学校では、学校の先生から困りごとを聞いて、それを地域とマッチングさせるような取り組みも行っている。</p>
ファシリテーター	<p>・これまでのお話から、コミュニティ・スクールの取り組みは進んでいると感じる。</p>
E 委員	<p>・主は学校。学校を地域が助けるという視点が必要だと感じる。</p>
B 委員	<p>・コミュニティ・スクールも通学合宿も支援者の人材確保が課題だと感じている。</p>
E 委員	<p>・学校としても地域にどのような特技を持つ人材がいるか、などを把握していないとなかなか支援をお願いしづらいのではないかと。</p>
B 委員	<p>・私の地区のコミュニティ・スクールでは、ボランティアを募集しており学校に申し出て登録をしてもらっている。</p>
E 委員	<p>・そのような情報を全市的に人材バンクのような形でできるとよいのではないかと。</p>
<p>※以下のとおり、発表（藤原委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で確となる人を育てていくことが必要。 ・コミスクについては、PTA との役割分担などを意識する必要もある。 ・地域の人が持つ技術・得意なところを把握してマッチングするような取り組みも重要。 	



※全体のふり返り (板書担当: 菊地主査)

- ・ A チーム: 職員の意識醸成が重要。職員だけでなく子どもときから、市民活動について伝えていくことも重要との意見があった。
- ・ B チーム: 議員提案条例の取り組みは素晴らしいが、作ってからの取り組みが重要。議員活動の情報発信も重要だとの意見だった。
- ・ C チーム: 附属機関の会議などに市民が参加しやすくなるように、それぞれの審議会に応じて情報発信の方法を工夫することや、開催手法の工夫が必要との意見だった。
- ・ D チーム: 市民協働にとってコミュニティスクールの取り組みは重要。認知度を高めるとともに、初めて参加する人が参加しやすくなるような工夫が必要との意見だった。



横山委員長

- ・非常に有意義な議論がされたと思う。
- ・いくつか振り返りたい。
- ・ボランティアとは、何なのかといったことを考えるべきだと感じた。
あくまで自主的
- ・議会については、議会基本条例を制定している自治体も増えている。制定しているところは、市民討論会を行って議員みんなが参加しているという自治体もある。
- ・町内会の活動で活発なところと、そうでないところと差があるのはどういった点かということも検証しなければならないのではないかと感じる。職員は積極的に町内会に参加してほしいと感じるが、家庭状況などによって差もあるかと思う。また、職員のみでなく都市になればなるほど、加入率が下がるなどがある。
- ・市民参加に参加したいがきっかけがつかめないという層も一定程度いる。そのきっかけを複数用意することが市民協働のまちづくりの推進につながる。
- ・コミュニティ・スクールの取り組みは始まって間もない。恵庭市は取り組んでいる部類ではないかと感じる。それぞれの役割を分担して初めて連携ができる。町内会・地域・学校でよく話合うべきだと感じる。
- ・本日は会議形式の進行より発言がしやすかったのではないかと感じる。今後もこのような手法での開催を検討してほしい。

4. その他、5. 閉会

横山委員長	本日の議題はここまでとなりますが、他に何かありますでしょうか。
全体	(※質問・意見無し)
横山委員長	事務局から何かありますでしょうか。
事務局	次回以降の日程について、4月27日を予定しています。
横山委員長	では、本日はこれで終わりということにして、次回は4月27日に開催ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもご苦勞様でした。

以上（16時10分終了）